

学校づくりは 地域づくり

子どもたちが、これからの時代を生き抜く力を持つには、学校のみで育まれるものはありません。地域社会とのつながりの中で、多様な人々と関わり、たくさん経験を重ねていくことによって、子どもたちの成長に豊かさやたくましさを生み出してくれそうです。

子どもたちが、これからの時代を生き抜く力を持つには、学校と地域の双方の関係をくわたり、学校が地域の力を借りるばかりではなく、地域に対しては学校の持つ力を提供し、双方がWin-Winの関係になることを目指す。地域の方に授業をしてもらったら、地域の方もまた何かを学んで帰ってもらおうようにしなければなりません。そして、持続可能な仕組みにしていくことが肝心です。

「これを超えること、どうやっていくのか、そのために今何が必要なのか」という見通しや目的を理解していなければならぬのです。みんなで知恵を出し合ったり、取り組むためのことです。コミュニティ・スクール(C・S)という言葉はよく耳にする機会があると思います。C・Sとは「...という建前が先にあって、そのためになにかをやるか」という考え方を指して、地域みんなの総力を結ぶこと、なかなかに続かなく

それよりも、「この地域でどういう子どもを育てたいのか、そのためにいつどんな体験が必要なのか、そのために必要な力、地域の力も必要だ」と考えるほうが持続可能となっていきます。次代を担う子どもたちは、地域の宝です。そうであるならば、俱知安町内のすべての子どもたちが通う学校も地域の宝というべきです。「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域みんなの総力を結ぶこと、なかなかに続かなく

力、子どもたちの未来を切り開いていきたいと思います。子どもに開くすべての大人の主体的な教員参加が、当事者意識、自覚意識の醸成となり、それが「学校づくり」が「地域づくり」へと発展していくことが大いに期待されるのです。「いい学校は、いい学校をそだてる」そうおっしゃる教育長さんがいます。「地域を海とすれば、学校はそこに浮かぶ船だ。豊饒な海、つまり豊かな地域の力が学校を支え、子どもたちを育むんだ。」

その子どもたちが大人になったときに、地域の一人として自分の学びの成果を次の世代に伝え、子どもたちを育てる。そうした「学びの循環」が「まちづくり」につながるんだ。学校は「学びの循環装置」であるべきだね」と熱く語っています。学びの循環装置として学校が機能するならば、俱知安中学校が多くの町民に愛され支えられ続けていくことでしょう。

今の時代、注意したら金属バットで殴ってくるような不良はどこにもいない。昔、ボンタン・短パンだった悪ガキは今どうしているだろう。



▲完成をイメージしながらの作業



▲最初の頃の印象とは全く違う仕上がりに



▼大切に使うてくださいな

陶芸教室 作品完成 ついに完成!! 渾身の一作

7月から始めた陶芸体験は、素焼きの後、8月に釉薬付けを経て、約2ヶ月後の9月についに完成した。俱知安の陶芸愛好会の会員に習いながら、生徒自身が自由な感性で作った作品は、どれも個性が溢れている。「クラスや、その年によって毎回全然違う」と楽しそうに話している陶芸愛好会の三好さんが印象的だった。

対話型鑑賞体験



▲模写は鉛筆のみ。消しゴムなしの一発勝負



▲対話型鑑賞に引き込まれる生徒たち

9月2日、5日の二日間に分けて1年生が町の小川原橋記念美術館を訪問。生徒らは気に入った作品を模写した他、学芸員による「対話型鑑賞」を行った。これは、一方的に知識や情報を与えて作品の説明をするのではなく、見たこと、感じたこと、連想したこと、考えたことなどを自発的に発言し刺激を受け、鑑賞者同士の「気づき」の輪を広げていくというもの。

生徒らはとても貴重な体験ができた時間となった。この対話型鑑賞は、模写は鉛筆のみ。消しゴムなしの一発勝負。生徒らはとても貴重な体験ができた時間となった。

俱声人語

俱知安中学校で話しあった時に聞いた言葉が「困っている地域住民が、直接中学生に声をかければ良いのでは?」確かに、そこで解決する事かもしれない。「通れないから一列になつてくれる?」など一度聞いてくれなければいけません。子どもに道理を示すのは大人の役割だ。しかし、今時は「困った事があれば、とりあえず学校に連絡する」という流れが出来上がっている。

2022年
10月27日
木曜日
発行所
俱知安中学校
学校運営協議会
〒044-0055
北海道虻田郡
俱知安町北5西2-1
電話 0136-22-0192
https://kutchan.ed.jp/
/kutchan-jhs/

紹介します。
学校運営協議会
(コミュニティ・スクール)

- 平野 雄二 会長
- 古谷 眞司 副会長
- 佐藤 裕 委員
- 本田 哲 委員
- 田中 洋子 委員

木村 和義 校長 | 野口 和昭 教頭
黒田 征宏 主幹教諭

推進員
松井 雅子 / 本間 景子 / 増田 朱里

C・S(コミュニティ・スクール)

保護者や地域住民が一定の権限と責任を持って学校運営に参画することで、育てたい子ども象、目指すべき教育のビジョンを共有し、目的の実現に向けて協働する仕組みのある学校のこと。